

レモン新品種「イエローベル」の栽培方法と食品機能性

広島レモン利用促進プロジェクトチーム 金好 純子, 坂田 勉

レモン新品種「イエローベル」(平成 24 年 3 月品種登録 第 21709 号) は、種子が少なく果汁が多い等の有用な形質を有する。これまで、本品種の食品機能性等の果実成分特性については未解明であった。また、栽培面では不完全花が多く生理落果も多いため、結実数が少なくなることがあった。そこで、果実成分の特性を調べるとともに、結実安定の対策を中心に栽培技術の開発に取り組んだので紹介する。



1 研究成果の概要

1) 果実成分の特性

- ①果汁特性：果汁割合がレモンより 10%程度多い。JAS レモンストレート果汁の基準に適合する。
- ②フラボノイドの特徴：レモンに特徴的なエリオシトリン、ヘスペリジン含量は低く、花粉親の「サマーフレッシュ」に類似して、ナリンギン、ネオヘスペリジンに富む。
- ③機能性：高脂肪食を投与した動物実験の結果、血清中のアディポネクチン濃度が対照の無添加区と比べて高く、肥満に伴う疾病リスクを軽減する効果を有する可能性が考えられる。

2) 栽培方法の概要

- ①整枝剪定：一般のレモンに比べて枝葉や花が多いので、3 月の剪定は強めに行う。また、結実しやすい花は有葉花であるため、5~6 月は、花ばかりついた枝(花母枝)を中心に間引き剪定し、花と葉が小型化した枝はすべて剪除して養分の無駄な消費を防止する。
- ②施肥・かん水：肥切れしないようにレモンと同等の基準量(10a あたり 3 t 収量の場合は窒素成分量 36kg)を年間 5 回分肥する。葉色はレモンより濃い葉色(葉色板値で 5~7)が適正である。また、5~7 月の土壤乾燥は生理落果を助長するので、5mm 以上の降雨が 10 日以上ないときは、1 樹あたり 20L 程度のかん水を行う。
- ③ジベレリン散布：花が少ない時や不完全花が多い時は、着果率向上のために、ジベレリン 25~50ppm を満開 5~10 日後に散布する。なお、薬剤費は 10 a あたり 21,400 円(濃度 50ppm、散布液量 2L/樹、50 樹/10a の場合)である。
- ④収穫適期：果実肥大が良いので出荷基準の M サイズに達すれば 10 月から収穫できるが、果汁割合は 12 月上旬に最高になる。ただし、低温(-3℃以下)に 3 時間以上遭遇するとレモンと同様に果実が凍結して苦味を生じるので、寒波襲来前に収穫する。

2 成果の活用場面

消費者アンケート結果から、本品種は種子が極めて少なく、皮が薄く果汁が絞りがやすく、酸味がまろやかなので、強い酸味が苦手な人にも適したレモンとして、新たな需要を喚起できるものと考えられる。また、これまでにない食品機能性を活かした商品開発により、新たな商材の創出が期待できる。